

外国語科学習指導案

単元名 Lesson 6「A Class from Stanford University」(啓林館)

令和7年9月 第3学年 指導者 松尾 友子

I 単元の構想

1 単元観

高等学校学習指導要領(平成30年告示)第8節外国語第1款目標では、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」の育成が目指されている。また、「エージェンシーを発揮する『自律した学習者』へ」(群馬県教育委員会)では、自律した学習者の育成に向けて、生徒が「自己決定」「対話・交流」「試行錯誤」する場面を授業に取り入れることを指導改善の重点として示している。

本単元では、スタンフォード大学で実際に行われた「5ドルと2時間でどのようにお金を稼げるか」をテーマにした授業の様子を題材とした英文を読み、そこから得られる発想力や問題解決能力、資源の再発見といった価値に着目し、自らの生活に応用可能な企画を立案して、英語で発信する力を育成することを目的としている。本文では、学生たちが制限された条件のもとで、金銭よりも発想力・人脈・表現力といった「見えにくい資源」を活用し、課題の枠を再定義し、新たな価値を生み出す姿が描かれている。この題材を通して、生徒は、柔軟な思考や問題解決能力、資源を再発見する視点の重要性に気付くことができる。

本単元における主な言語活動は、「費用をかけず、残りの高校生活におけるホームルーム活動の1時間を活用して、クラスの絆を深め、思い出を残すためにはどんな企画ができるか」というテーマについてのプレゼンテーション(発表)である。生徒はグループごとにアイデアを出し合い、限られた時間や条件の中で実現可能な企画を立案し、その目的や意義、期待される効果について、英語で明確かつ説得力をもって発表する。発表では、視覚資料(スライド)を活用し、ジェスチャーや話し方(スピード・イントネーションなど)を工夫するなど、聞き手に配慮した効果的な伝え方が求められる。また、聞き手となる他のグループの生徒は評価者の役割を担い、発表に対して積極的にリアクションを示したり、質問や意見を述べたりすることで、双方向的なコミュニケーションを促進することができる。

本単元を通じて、生徒は日常的な話題において、支援を最小限に抑えつつ、多様な語句や文を状況に応じて適切に使い、自分の考えや気持ちを詳しく述べ、相手に伝わるよう工夫して発信する力を育成することができる。また、「チャンスはどこにでもある」「限られた資源にも価値を見出せる」「固定観念にとらわれない柔軟な発想が重要である」といった、これからの社会を生きる上で必要な視点を身に付け、それを英語で創造的かつ論理的に伝える力を高めることができる。

2 研究との関わり

本研究では、目指す生徒像を「読むこと」で得た学びを「話すこと」へとつなげることができる生徒の育成と設定し、その実現に向けて講じる手立てを「生成A Iで作るレベル別テキスト」と「タスクベースの表現活動」とした。

「生成A Iで作るレベル別テキスト」とは、生成A Iを用いて語彙や文構造の難易度を調整した複数のテキストを提示することで、生徒自身が理解度に応じてテキストを選択できるようになり、自力で英文を「読めた」・「分かった」という成功体験を得られるようにする支援のことである。これにより、英文読解への動機付けが高まるとともに、教科書本文の表現をよりシンプルで伝わりやすく言い換える方法(パラフレーズ)も学べるため、「読むこと」で得た学びを「話すこと」へと円滑に結びつけることができる。本研究では、三つのレベルの英文を使用した。

「タスクベースの表現活動」とは、内容理解の後に、英文の主旨や社会的背景を踏まえた具体的なタスク(プレゼンテーションやリテリングなど)を設定することで、表現活動に必要な情報や英語表現を得るために「読むこと」を行うという明確な目的が生まれ、生徒がより主体的に英文と向き合う機会を確保するための支援のことである。こうした学習展開を通じて、生徒は読み取った情報を基に、自己の意見や解決策を英語で表現する力を養うことができる。

3 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 「費用をかけず、残りの高校生活におけるホームルーム活動の1時間を活用して、クラスの絆を深め、思い出を残すためにはどんな企画ができるか」というテーマについて、聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えを形成し、論理性に注意して話して伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙の知識や文構造の理解に生徒間で大きな差があり、教科書本文の概要をつかむ段階でつまづいてしまう生徒も少なくない。「読むこと」を通して得た知識を「話すこと」の言語活動で活用することが難しい。
思考力、判断力、表現力等		<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士で意見交流する場面を設けたり、教師が発話のモデルを示したりするなどの事前の支援があれば、自分の考えを簡潔にまとめて話して伝えることができる。
学びに向かう力、人間性等		<ul style="list-style-type: none"> 仲間と協働して学び合う雰囲気があり、「話すこと」の言語活動に積極的に取り組むことのできる生徒が多い。

4 評価規準

知識・技能	「費用をかけず、残りの高校生活におけるホームルーム活動の1時間を活用して、クラスの絆を深め、思い出を残すためにはどんな企画ができるか」というテーマについて、その目的や意義、期待される効果について、英語で明確かつ説得力をもって発表するために必要な語彙や表現を身に付けている。
思考・判断・表現	聞き手に自分の提案を納得してもらえるように、ホームルーム企画の目的や意義、期待される効果、自分の思いなどを論理性に注意して話して伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	聞き手に自分の提案を納得してもらえるように、ホームルーム企画の目的や意義、期待される効果、自分の思いなどを論理性に注意して話して伝えようとしている。

5 指導及び評価の計画（全8時間：本時第8時）

時間	□学習活動 ★ICT活用に関する事項	知	思	態	◆評価項目<方法（観点）> ○指導に生かす評価、●評定に用いる評価
1	<input type="checkbox"/> 教師のオーラルイントロダクションを聞いて、本文全体のテーマや重要語句を確認する。 <input type="checkbox"/> 本文全体を読んで、スタンフォード大学で実際に行われた、5ドルと2時間を元手にした授業の概要を捉える。	○			◆本文全体の概要を捉え、各パラグラフの主題を理解している。 <振り返り（知）>

2	<input type="checkbox"/> 本文の導入部分（1～2）を読んで、スタンフォード大学の学生たちに与えられた課題の詳細を理解する。 <input type="checkbox"/> 「5ドルと2時間を使ってお金を稼ぐためにあなたは何をするか」という課題について、自分で考えたアイデアをペアで伝え合う。 <input type="checkbox"/> 「費用をかけず、残りの高校生活におけるホームルーム活動の1時間を活用して、クラスの絆を深め、思い出を残すためにはどんな企画ができるか」というテーマについて考える。			○ ◆「費用をかけず、残りの高校生活におけるホームルーム活動の1時間を活用して、クラスの絆を深め、思い出を残すためにはどんな企画ができるか」というテーマについて考えをもととしている。 <振り返り（態）>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【単元の学習課題】 「費用をかけず、残りの高校生活におけるホームルーム活動の1時間を活用して、クラスの絆を深め、思い出を残すためにはどんな企画ができるか」というテーマについて自分の考えを形成し、発表する。</p> </div>				
3	<input type="checkbox"/> 本文内容に関する教師のオーラルイントロダクションを聞き、与えられたテーマについて生徒同士で即興的なやり取りを行う。 <input type="checkbox"/> 個々の読解力に応じて選択・決定したテキストを用いて、本文内容（3～5）を理解する。 <input type="checkbox"/> テキストを読むことで得た知識や情報を基に、タスクベースの表現活動を行う。	○	○	◆ 枠にとらわれない学生の発想の具体的な事例について理解し、レストランの予約を売ったグループやタイヤの空気圧を測ったグループの学生の視点から、本文内容を再話している。 <観察・振り返り（知・思）>
4	<input type="checkbox"/> 本文内容に関する教師のオーラルイントロダクションを聞き、与えられたテーマについて生徒同士で即興的なやり取りを行う。 <input type="checkbox"/> 個々の読解力に応じて選択・決定したテキストを用いて、本文内容（6～7）を理解する。 <input type="checkbox"/> テキストを読むことで得た知識や情報を基に、タスクベースの表現活動を行う。	○	○	◆ 最も成果を上げたグループとそれ以外のグループの具体的な事例について理解し、それぞれのグループの学生の視点から、上手くいった点や反省点について話して伝えている。 <観察・振り返り（知・思）>
5	<input type="checkbox"/> 本文内容に関する教師のオーラルイントロダクションを聞き、与えられたテーマについて生徒同士で即興的なやり取りを行う。 <input type="checkbox"/> 個々の読解力に応じて選択・決定したテキストを用いて、本文内容（8～10）を理解する。 <input type="checkbox"/> テキストを読むことで得た知識や情報を基に、タスクベースの表現活動を行う。	○	○	◆ この授業を通してシーリグ教授が伝えたかった三つの要点を理解し、スタンフォード大学の学生の視点から、この授業で学んだ教訓を日本の高校生にも伝わるような簡単な英語に書き換えている。 <ワークシート（知・思）>

6	<input type="checkbox"/> 前時の内容を口頭で振り返り、筆者の伝えたいこと（要点）を再度確認する。 <input type="checkbox"/> 発表の内容・方法・評価基準を理解する。 <input type="checkbox"/> 「費用をかけず、残りの高校生活におけるホームルーム活動の1時間を活用して、クラスの絆を深め、思い出を残すためにはどんな企画ができるか」というテーマで、グループごとにアイデアを出し合う。	●	○	<p>◆「身近なチャンスに気付くこと」「利用できる資源を有効活用すること」「課題を枠にはめずに広い視野から考えること」という価値を踏まえた上で、企画を立案している。</p> <p><観察・ワークシート（知・思）></p>
7	<input type="checkbox"/> 生成AIを活用して、発表原稿とスライド資料を作成する（★）。 <input type="checkbox"/> 発表準備の方向性や進捗状況を生徒同士で確認し合いながら、資料作成を行う。 <input type="checkbox"/> グループ内で発表練習を行う。		○	<p>◆説得力のあるプレゼンテーションにするために、グループのメンバーで協力しながら、内容や表現を工夫している。</p> <p><原稿・スライド（思）></p>
8 (本時)	<input type="checkbox"/> 言語活動のゴールや話し手・聞き手それぞれの役割を確認する。 <input type="checkbox"/> ワールドカフェ方式で発表を行う。 <input type="checkbox"/> 元のグループに戻ってそれぞれが聞いてきた他のグループの発表内容を共有し、最もよいと思う企画に投票する。 <input type="checkbox"/> 学習の振り返りを行う。	●	●	<p>◆聞き手に自分たちのグループの提案を納得してもらえるように、企画の内容やその意図、自分の思いなどを論理性に注意して話して伝えている。</p> <p><動画（思・態）></p>
<p>[単元の学習課題]</p> <p>「費用をかけず、残りの高校生活におけるホームルーム活動の1時間を活用して、クラスの絆を深め、思い出を残すためにはどんな企画ができるか」というテーマについて自分の考えを形成し、発表する。</p>				

II 本時の学習（8／8時間目）

- ねらい「費用をかけず、残りの高校生活におけるホームルーム活動の1時間を活用して、クラスの絆を深め、思い出を残すためにはどんな企画ができるか」というテーマについて、説得力のある提案を行うことができる。

2 展 開

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1 教師の発問に応じたり、生徒同士でやり取りしたりしながら、本文の内容を口頭で復習する。 (導入5分)	◎「読むこと」で得た学びを「話すこと」につなげることができるように、生徒にとって理解可能なインプットを与えるとともに、生徒の発話を引き出すようにする。
2 教師の説明を聞き、発表の手順、話し手・聞き手それぞれの役割とタスク、評価基準を確認する。その後、同じグループの生徒同士で発表前の最終準備を行う。 (展開①7分)	○他のグループの発表を聞く際には与えられた役割のもと、発表を聞き、聞き手として質問やコメントをすることを促す。
S：クラス企画に込めた思いが伝わるように、聞き手を意識しながら発表しよう。	

S：どんな提案があるのか楽しみだな。	
<p>＜めあて・課題等＞</p> <p>「費用をかけず、残りの高校生活におけるホームルーム活動の1時間を活用して、クラスの絆を深め、思い出を残すためにはどんな企画ができるか」というテーマについて、説得力のある提案を行うことができる。</p>	
<p>3 発表は各グループのブース（8か所）に分かれ、ラウンドごとに発表者を交代しながら、全5ラウンド実施する。発表者以外の生徒は、他のグループのブースで発表を聞き、内容をメモに取る。発表後、聞き手は内容に関する質問やコメントを英語で伝える。</p> <p>2ラウンド終了時点で一度自分たちのグループに戻り、すでに発表を終えた生徒2名を中心に振り返りを行い、次回以降のラウンドに向けての改善点を確認・共有する。</p> <p>5ラウンド終了時点で再度自分たちのグループに戻り、各グループの発表内容を共有・評価する。（展開②38分）</p> <p>＜手順の詳細＞</p> <p>Round 1（発表2分、質疑応答2分） ↓（移動・準備1分）</p> <p>Round 2（発表2分、質疑応答2分） ↓（移動・準備1分）</p> <p>Peer Feedback①（各グループ6分、全体2分） ↓（移動・準備1分）</p> <p>Round 3（発表2分、質疑応答2分） ↓（移動・準備1分）</p> <p>Round 4（発表2分、質疑応答2分） ↓（移動・準備1分）</p> <p>Round 5（発表2分、質疑応答2分） ↓（移動・準備1分）</p> <p>Peer Feedback（各グループ4分）</p> <p>S：聴衆の反応を見ながら、大事なポイントをゆっくりと強調して話すようにしましょう。</p> <p>S：他のグループの発表には、自分たちには無い発想や表現の工夫があって面白いな。</p>	<p>○中間指導の場面で生徒同士の学び合い（Peer Feedback）や教師によるフィードバックの機会を設定することで、その後のラウンドでの発表ややり取りが充実するよう支援する。</p> <p>＜ Peer Feedback①：振り返りの視点＞</p> <p>実際に発表してみて気付いた課題や反省点に関して、次回以降のラウンドで発表者が改善できることはないか。（質疑応答・時間配分など）</p> <p>＜ Peer Feedback②：評価の観点＞</p> <p>各グループの発表を比較して、筆者の三つのメッセージを最も反映させた企画を立案したのはどのグループか、また、実際にやってみたいと思うような説得力があったのはどのグループか。</p>
<p>4 本時を振り返り、各自で一番よかったと思うクラス企画に投票し、結果をクラス全体で共有する。（終末5分）</p> <p>S：この授業で学んだことを今後の人生でも生かせるといいな。</p>	<p>○得票数の多かった上位のグループを発表し、その企画内容に触れながら、「身近なチャンスに気付くこと」「利用できる資源を有効活用すること」「課題を枠にはめずに広い視野から考えること」の重要性（本文の要点）をあらためて意識できるようにする。</p>
<p>◆評価項目</p> <p>聞き手に自分の提案を納得してもらえるように、ホームルーム企画の目的や意義、期待される効果、自分の思いなどを論理性に注意して話して伝えている。 <動画（思・態）></p>	